

(別紙2)

# デジタル原則適合に向けた システム面からのアプローチ

2022年5月20日

## デジタル庁

---

01

ゴール設定

## 事業者による行政手続の生産性を最大化するシステムを提供する

- ・ KGI、KPIの設定については別途行う（本日は方向性について議論）
- ・ 「手続き」には、申請プロセスだけではなく、審査、結果通知等も含む
- ・ 事業者間手続きについての課題についても認識、別途検討していく

(個人による手続については、マイナポータルによる検討を進めつつ、ケースに応じて検討)

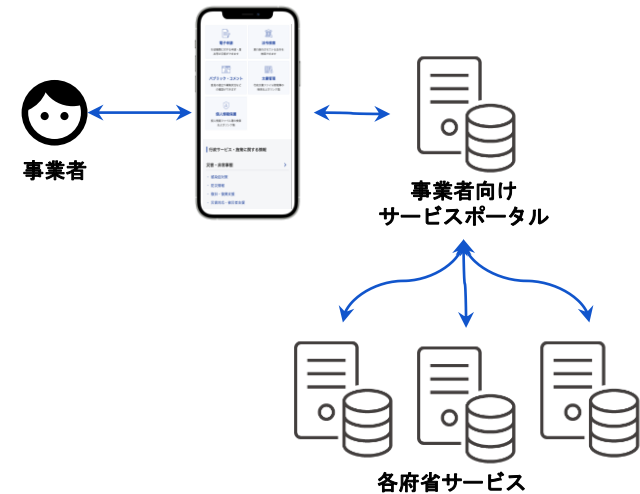
---

02

ビジョン設定

## あるべき状態 / 目指すべき状態

- a. 事業者向けサービスが一元化されていて
- b. 必要なサービスが探しやすく
- c. 手続きのコストが低く
- d. 状態が明示されていて
- e. レスポンスが早い



<イメージ>

- ・サービスのUI/UXイメージをデジタル庁横断のタスクフォースとして検討、構築(予定)
- ・併せて、事業者向けサービスのあるべき状態について、より具体的な形でコンセンサス構築と実装の検討

---

# 03

## 現状と課題設定

**a. 複数サービスの併存**

- e-Govをはじめとして
- マイナポータル
- j-Grants
- eMAFF
- 年金システム
- ハローワークシステム
- 特許システム
- And more

**b. プロセスが最適化されていない**

- 入力項目の非正規化、重複
- 入力項目の補完不足
- 入力項目のガイド不足 (何を書けばよいかわからない)
- 添付データ処理の質のばらつき、煩雑さ
- ステータスの不透明さ
- 結果通知方法のばらつき
- 申請、届出処理 (審査等) 時間の未最適化



**c. そもそも電子申請が可能となっていない**

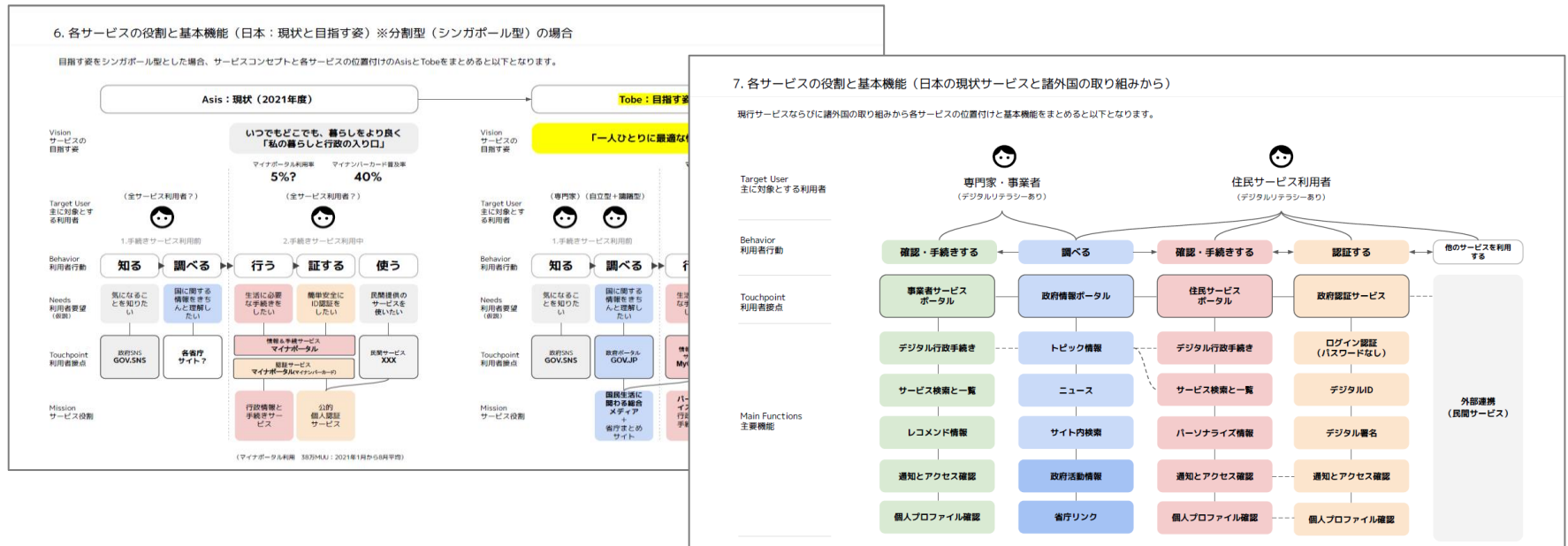
- T/O
- ライトウェイトなワークフローサービスについては検討の価値あり

# 04

## 課題解決に向けた検討プロセス

## a. フロントサービス全体戦略策定

- フロントサービス全体戦略に則り、e-Govの提供サービス内容検討、事業者向けサービスのあるべき姿、開発マイルストーンを明確にする
- 合わせて、デジタル庁、他省庁含めて目指す姿についてコンセンサスを構築する





**c. 既存サービス改修、新規構築サービスへのガイド**

- (今日現在も並行して) 既存サービスの改修、改善、新規サービスの構築は行われている
- これらについては以下の2つのアプローチを行う
  - I. 新規構築サービスについては、既存システム (e-Gov、マイナポータル、j-Grants、eMAFF、etc) での課題解決について検討を行う
    - (ケースによっては、既存システムの改修によってこれを解決する)
  - II. 既存サービスの改修については、前述 (a.) の進捗と合わせて、負債を最小にするガイドを行う (APIの提供、データフォーマットのガイド等)

✓ スケジュール（システム整備検討）

		2022/R4年度	2023/R5年度	2024/R6年度	2025/R7年度
マイルストーン	各省庁・デジタル	R5予算要求 中長期計画	R5システム整備 R6予算要求	R6システム整備	
	デジタル臨調	方針検討、方針精緻化・具体化		[デジタル臨調] 集中改革期間（3年程度）	
1. 全体戦略策定		戦略策定			
2. 計測・改善		計測する仕組み作り	現状把握	継続的な計測・改善	
3. 既存システムへのアプローチ		ガイドライン策定		改修時に新たな戦略を反映	